

◎平成30年度全国学力状況調査の結果について

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果につきまして、本校の概要を福岡市教育委員会の「公表ガイドライン」に沿って公表いたします。今後、生徒のさらなる学力向上に向けて改善を図って参ります。

【全国学力・学習状況調査について】

この調査は、小学校6年生と中学校3年生の2学年が対象で、本年度は4月17日に県内一斉に実施されました。今回の調査は本校3年生267名（受験者）のものであります。

1 調査内容

①教科に関する調査（国語・数学）

・国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

・国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

・理科（主として「知識」・「活用」に関することを一体的に問う問題）

②生活習慣や学習習慣に関する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査

2 結果及び今後の取り組み

(1) 教科に関する結果 ※全国標準と比べて次のように表しています。
 「上回っている」 「やや上回っている」 「同程度である」 「努力を要する」

<本校の結果>

○国語A：同程度である	○数学A：同程度である
○国語B：同程度である	○数学B：同程度である
○理科：やや上回っている	

(2) それぞれの教科に関する考察

国語A	○論理的な構成や展開などに注意して話を聴くことができる。また、接続詞の働きについての理解がある。文脈に即して漢字を読むことができている。 ●文の成分の順序や照応、構成を考えて適切に文を書くことに課題がある。
国語B	○質問の意図を捉えることができる。話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することができる。 ●目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことに課題がある。
数学A	○単項式どうしの除法の計算や簡単な比例式は、かなりの生徒ができています。 ●一次関数について理解することや数量の大小関係を不等式に表すことに課題がある。
数学B	○与えられた情報を読み取り、図形の観察や数学的な表現を用いて説明することができる。また、事象を多面的にみることができる。 ●資料を活用し問題を解いたり、説明する問題や証明問題を解くことに課題がある。
理科	○知識・活用に関する問題、双方とも様々な分野においてしっかり理解できている生徒が多い。 ●科学的な思考・表現の部分については、課題がある。

(3) 今後の取り組み

今回の学力調査・生徒質問調査結果から次のように取り組みを進めていきます。

- 少人数指導の積極的な活用。
- 主体的・対話的な学習展開を実践していく。
- 自学ノートの充実・発展的活用を実践していく。
- 授業でのまとめとふりかえりを徹底する。